

# 「上昇1.5度」合意 具体策は

## COP26閉幕 石炭火力「削減」明記

英國で開かれていた国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP26)は13日、産業革命前からの気温上昇を1・5度に抑える努力を追求するとした「グラスゴー気候合意」を採択して閉幕した。条件付きながら石炭火力発電の削減や、化石燃料の補助金廃止も初めて明記した。各国が連携して対策を加速させることを確認したが、目標の達成は見えていない。どう実現していくか具体策が問われる。▼2面=苦肉の前進、11面=こぎ出す英、12面=社説、33面=人工衛星の技術紹介

合意文書には、「世界の気温上昇を1・5度に抑える努力を追求する」という表現が盛り込まれた。2015年のCOP21で採択されたパリ協定は、気温上昇を2度よりも低くし、できれば1・5度に抑える目標を掲げた。今回の合意は努力目標だった1・5度を格上げし、事实上、新たな世界目標と位置づけた。

目標の実現には、世界全体で温室効果ガスの排出量を大幅に減らさなければならぬ。COP26に向かって、140カ国以上が今世紀半ばの排出実質ゼロを掲げ、多くの国が30年の削減目標を引き上げたが、達成には足りていない。各

目標の実現には、世界全員で温室効果ガスの排出量を大幅に減らさなければならぬ。COP26に向かって、140カ国以上が今世紀半ばの排出実質ゼロを掲げ、多くの国が30年の削減目標を引き上げたが、

COP26の主な成果	産業革命前からの気温上昇削減目標の見直し	1.5度が事実上の世界目標に
合意文書では1・5度目標の実現に向けて「今世紀半ばには実質ゼロにする」と明記し、この10年間の行動を加速する必要がある	来年までに1.5度目標に沿った内容に更新。5年に1度から毎年の更新を呼びかける	
合意文書では1・5度目標の実現には、世界全員で温室効果ガスの排出量を大幅に減らさなければならぬ。COP26に向かって、140カ国以上が今世紀半ばの排出実質ゼロを掲げ、多くの国が30年の削減目標を引き上げたが、	排出削減策のない石炭火力を段階的に削減 非効率な補助金を段階的に廃止	
1・5度目標を引き上げたが、できれば1・5度に抑える目標を掲げた。今回の合意は努力目標だった1・5度を格上げし、事实上、新たな世界目標と位置づけた。	温暖化に備えるための途上国支援 2025年までに倍増	
合意文書では1・5度目標の実現に向けて「今世紀半ばには実質ゼロにする」と明記し、この10年間の行動を加速する必要がある	国際間の削減量取引を取り決め 150カ国以上が更新。今世紀半ばごろまでの実質排出ゼロも140カ国以上に	
1回とする方針も示した。 具体的策にも踏み込んだ。	メタン削減やゼロエミッション自動車、脱石炭火力、森林保護などで多数の国が取り組みを約束	

温室効果ガスの削減量の国際取引を認める仕組みも採択された。市場での削減量売買を通じ、各との取り組みを促す効果が期待できるが、一重計上などの問題があり、過去2回のCOPで先送りされてきた。「パリ協定」の採択から6年をへて導入が決まったことで、残されていた最後のルール作りが完成した。(グラスゴー)=川田俊男、香取裕介

る」とした。化石燃料に対する非効率な補助金も段階的に廃止する。先進国である日本を含め新興国や途上国では、石炭への依存度が高い国が多い。当初案にあった「段階的に廃止」の表現はインドや中国の反対で「段階的に削減」と修正された。排出大国がいかに早く脱石炭を進め、再生可能エネルギーに転換できるかが対策のカギになる。

一つは大量の二酸化炭素を出す石炭火力発電だ。排出削減策を設けていない石炭